



第14回

# 住まい備忘録

(株)日本建築家協会 沖縄支部 会員

塩 真 孝 彰

(バス建築研究室)

## 第三者的視点で住まいを考える

私の考える「住まい」とは、安らぎのある場所、大切な家族と心身ともに癒される場所のことである。毎日の生活の中でどれだけの時間をその場所で過ごすかは、それぞれの事情で異なると思うが、職場や学校から帰ってゆったりとくつろげる場所がある

あるということが一番重要だと認識している。

そんな私が家建てたのが5年前のこと。妻が探してきた高台の土地を購入してから4年の歳月が流れていた。その間、資金を貯めることと住まいのイメージを練り上げていくことに時間を費やした。

私はル・コルビュジェが好きで、幸いにもロンシャンの教会やラ・トゥーレット修道院、マルセイユのユニテ・タピタシオンやカップマルタンの休暇小屋を訪れる機会を得た。その体験はこれまでの写真でしか知り得なかった視覚的経験を超えて、光や音、そしてその場所の空気を感ずることができた。自邸リビングの円形トップライトにはその感覚を意識して採用している。

私は自邸の設計に第三者的視点を取り入れたいと考え、気心の知れた建築士に協力を依頼した。物事すべてが自分の考えたことだけで決まること

は何か気持ちが悪かったし、自己満足で終わるような気がしたからである。

そもそも設計とは発注者と設計者との共同作業であり、さらに施工者が加わって完成を見るのである。三者三様の考えがあつて、それぞれの思いがぶつかり混ざり合つて出来上がるものと私は考える。

自邸では発注者であり、設計者でもあり、さらに施工は義兄が携わることによつて、それぞれの立場を意識して考えるように努めた。その経験は私の専門分野



自邸外観

## 住まいは多くの視点で成立

である構造設計においても三者の立場を考えて設計することに役立っている。

住まい(建築)は決して設計者の独断で考えるものではなく、多くの視点が生かされて成り立つものだと思うし、それを正しい方向に導いていくこと(プロデュースすること)が建築家の役割だと日々考えている。さらにそれを補佐する役目が構造と設備の専門家である

ことは言うまでもない。



自邸内観